

SHIN CLUB 175

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「アジュール」
撮影：阿野太一



「前面道路に開かれたアジュール」 撮影：編集部

今月のトーク/monthly talk

駅前広場

写真の建物は、石神井公園駅前に建ったテナントビルです。石神井公園駅は現在、南口広場の道路拡張工事、ロータリーの整備などが行われています。

鉄道が引かれて、地域が次第に発展していく途上では、駅舎がその町の主役でした。昭和の匂いのするレトロ感あふれる東京駅や、小さなところでは今も残っている原宿駅などはその代表でしょう。改札で駅員さんに切符を切ってもらい、(キザミを入れるテクニックにおどろいたものです)、階段を上り下りし、ホームに降り立ち、列車を待つ。鉄道ファンならずとも、昔はそれだけでも良かった気がします。しかし、鉄道は街を二分しました。駅のあちらとこちら側を行ったり来たりするのは、基本的に駅舎を通らない限り、踏切や地下道、高架橋を通ることになります。長い踏切は、特に高齢者や子供たち、障害者には危険なものです。朝夕のラッシュ時の「あかすの踏切」による交通渋滞は、地域の住民を悩ませてきました。が、それも最近はどうも高架上架線化が進み、渋滞も解消されて環境にも良い効果を出していると言われます。駅舎の建物は、機能的なものに生まれ変わり、上下の移動も加わり、大きな駅では重層的な空間計画の工事が長い時間をかけて行われています。

さて 踏切と同じく駅に向かう人々を悩ませるのが、放置自転車です。今回、久しぶりに訪れた石神井公園駅前では、駅周辺の道路や歩道に置きっぱなしの自転車はほとんどなくなっていました。放置自転車監視員の方たちが常に見回っています。駅前の掲示板を見ると、駅から600m圏内の放置自転車、放置オートバイはすぐに撤去され、その引き取り費用が、それぞれ4000円、7000円というかなり高額の設定になっていました。それだけの金額で初めて効果が出るというものでしょう。駅のビルの中には、合わせて1500台収容の自転車置き場が数か所あり、周辺にも7か所の公営

の自転車駐車場があります。自転車を駅前に入らせない、という対策が徹底しています。周辺住民の方々の努力の賜物でしょう。

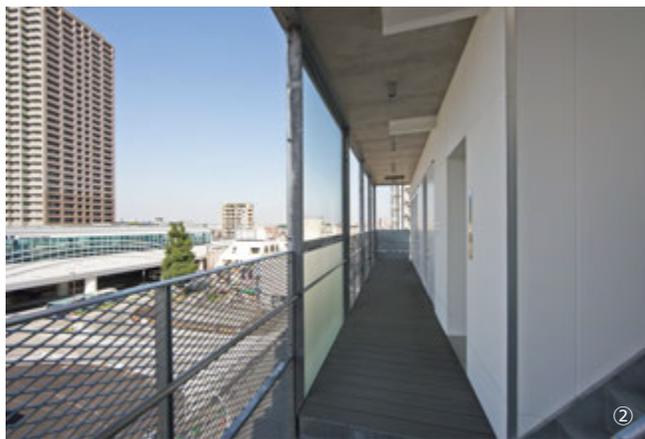
新しくなった北口は歩道も広く、バス・ロータリーへのバリアフリー化が進んでいるのがよくわかります。

さまざまなインフラの問題が解決された後の駅前広場には、より街を印象付ける景観がほしくなります。季節を感じさせる植栽や水を使った演出でくつろげるスペースがあれば、環境の良さが人々をひきつけます。ここ数年の経験で、有事の際、人々がとどまることができる程度広いスペースが必要だということもわかってきました。さらなる土地の確保は、街が発展してしまった今となっては簡単にはいきませんが、歩行者の流れとか滞留性を鑑み、周囲に視線をより意識したデザインが施された建物であれば、時間がそれに重みを与えてくれます。

考えてみると、広場は街路をつなぐ場所でもあることに気が付きます。街路にもいろいろなデザインのものがあるのが思い浮かべられます。雪よけ、雨よけに雁木を連ねた東北の伝統的な街並、天幕がかけられた南の地方の市場、パリのパッサージュのように屋根や舗道が作りこまれているアーケードなど。学生運動が盛んな頃、集会のメッカだった新宿西口広場は、「通路」であるとされて、集会の取り締まりを行えるようにされたという笑えない話もありました。

人が通り抜け、人が溜まる、その2つの要素を兼ね備えた有機的な存在としての「駅前広場」—我が町の駅を改めて見つめなおしてみたいかがでしょう。

アジュール



駅前広場に大きく開かれたファサード

石神井公園駅前の南口広場に向かって建つ、オーナー邸付きのテナントビルである。

この南口駅前広場は現在、再開発工事中である。基本的に、広場は単なるロータリーとして計画されているだけだが、周囲の建物の壁面が表情のある広場になれば面白い。

敷地は、駅前広場に向かっての接道幅が 12m あり、折れ曲がった奥の間口は 4m という変形の土地である。広場からの視線を受け、公共空間のように人が行き来し、テナントのサインが入った時に豊かな表情が加わるように、建物自体はシンプルながら、ファサードは広場に対する作法として、人の視線を受け止めることができる大きな面を作ろうと考えた。天空率による道路斜線緩和を受け 28m x 12 m という最大眼の面を確保し、存在感を高めた。

例えば、1 階は道路から少し下がってテナントの扉を設け、テーブルやイスが置けるくらいのスペースを作っている。2 階から 5 階もオープンなテラス通路とし、人が行き来する様子がよく見えるようにしている。フラットバーにはボルト用の穴が開いていて、ここで切り文字のサインを出したり、デザインのあるものを施したりできるようになっている。テナントの要望をすり合わせて、こちらでルールの策定を行っている。

オーナーの居住部分である 6 階（5 階の奥一部もオーナー邸）から 8 階は広場に向いて、エイジング素材である溶融亜鉛メッキを施したスチールパネルを壁面単位とし、手すりをエキスパンドメタルにして金物製作の職人さんの手仕事の風合いが表情となっている。

各フロアは 3 世帯それぞれのご要望とアイデアを建て主と一緒に形にしていける作業だった。5 階は将来賃貸に転用可能にするなど、室内のレイアウトも、フレキシブルに対応できるように計画している。

南側に広がる眺めのいい最上階にはデッキとコンダイニングを設け、バーのようなコモン・スペースとした。3 世代でお住まいのオーナーのご家族が集まったり、ご友人たちとの楽しいひとときを過ごされたりできるようにしている。

(工藤徹氏 談)

所在地：練馬区
 構造：S 造
 規模：地下 1 階、地上 8 階
 用途：店舗、事務所、共同住宅
 設計・監理：architecture WORKSHOP / 北山恒、工藤徹、岡田尚子
 構造：江尻建築構造設計事務所
 施工担当：中川、谷
 竣工：2014 年 7 月
 撮影：②-④阿野太一 ①編集部



①石神井公園駅南口広場に建つアジュール。広場は現在工事中②5階広場側通路。高架線となった西武線の駅のホームからはよく見える位置にある③6階リビングルーム。手前側に「くの字」に折れる部屋は斜めの引き戸で仕切ることができる④8階デッキとコンダイニング。南側は用途地域が異なり、高い建物は建たないので、広々とした眺めが楽しめる⑤駅前広場はバスロータリーとなる。広場西側には駅ビルが建設予定。横断歩道はアジュールのすぐ前に設けられる予定。図面右手に南口商店街が延びており、そちらも 10 年がかりで再開発が始まる予定である。すでに北口広場には、高級スーパーの「クィーンズ伊勢丹」が入った複合ビルや高架下などを利用した駅ナカ駅チカ商業施設「Emio 石神井公園」が昨年までに完成している

ミャンマー・スタディツアー報告

主催：ふるさと東京ユネスコ協会

8月末、「ふるさと東京ユネスコ協会」様主催の「ミャンマー・スタディツアー」に、弊社社長森村和男が参加いたしました。以前「ShinClub165」でご紹介したように、弊社施工の「Common Garden 原宿 北参道」に事務所を開設された同会は、ミャンマーの学校への支援を一つの目標に掲げられています。

ミャンマーは2011年、軍籍を離れた大統領が誕生し、民主化とともに急速に近代化が進みつつあります。しかし地方ではまだインフラ面、特に学校施設・設備というハードや教育というソフトの仕組みが大きく立ち遅れています。在日歴15年、目黒ユネスコ協会の元会員で、現在はミャンマーで出版や旅行業の仕事をしているヌット氏を仲介役に、今回8名のメンバーがミャンマーを訪問、支援活動を実施する運びとなりました。事前研修として、ミャンマー在住5年の小野寺有菜さんを講師に招いてミャンマーの最新情報や基礎会話などのレクチャーを受け、意欲も新たにされた一行は、ミャンマー東部のカレン州の2つの学校を訪れることになりました。

以下、「Common Garden 原宿 北参道」の設計者で今回は写真撮影も担当された鈴木孝紀氏にご協力いただき、紙上でご報告をさせていただくことにしました。



総勢8名の参加者たち。バヤー（仏塔）の境内はみな素足でなくてはならない

ミャンマーと日本の時差は2時間半、アクセスは成田から直行便でヤンゴン（旧首都：ラングーン）まで7時間あまりのフライトです。

8月29日、ヤンゴン空港に到着、ヌットさんの出迎えを受けた一行は、30人乗りの日本製バスでヤンゴン市街地に向かい、宿泊先のホテルへ。1年前に比べ、車のナンバーはビルマ語表記からアラビア数字の車が増え、交通渋滞、建築ラッシュで、街中は活気を感じます。

30日早朝、ヤンゴンのホテルを出発、中部の都市タウングーへ向かい、そこからカレン州の学校へ。今回は5000冊のノートを届けるのが主な目的です。1日目は約212名の子どもたちのいる20マイル学校。教室は簡単な柱と屋根、板張りで、小学校から中学校までの生徒が待っていました。教員宿舎に暮らす先生たちはほとんどが若い女性です。ノートを配ったら、子供たちは皆、本当にうれしそうにしていたそうです。

2日目に訪れたジャオピア村は、小学校から高校まで約593名の子どもたちが学んでいる学校でした。地区の副教育長の息子さんは、今年ヤンゴンの医大に受かったそうですが、ご夫妻合わせてひと月6万円の給与から5万円の学費を捻出するのが難しいそうです。ミャンマーで「今一番大切な支援は何か」と聞くと、誰もが「教育」と答えるそうです。まだまだ中央とはかけ離れた地方の暮らしですが、「日本人として何が出来るか」考えさせられる現地の言葉だったそうです。3日目はヤンゴンへ移動、4日目はヤンゴン市内の観光とし、ミャンマーの人々の優しい思いにふれ、帰国の途につかれた皆様でした。

＜弊社森村記＞

ヤンゴン国際空港に到着すると、道路の右車線を走る車は中古のトヨタ車が圧倒的に多く、雑踏を足早に歩く人々は活気に満ちている。到着してからの料理は美味しく、ホテルも想像以上にすばらしかった。

翌日、スタディツアーを開始。出来たての高速道路を走ったが舗装精度が悪く、上下に揺られること約3時間。ようやく古都タウングーへ到着した。ここからバスに乗り、再び車を取り換えカレン州へ。小型トラックの荷台は苦痛を伴ったが、ミャンマーの緑の風を頬で感じる事ができ、開放的で、快適な旅であった。

学校に到着すると、子ども達が私達を整列して待っていてくれた。お土産とオリジナルのノートを一人ひとりに手渡すと、小さな将来の手が握手を求めてきてニコッとした笑顔で「アリガトウ」と言ってくれた。むしろ私の心が洗われるようで、「コチラコソアリガトウ」と感謝。この国は、日本と比べると非常に貧しい。しかし、子どもたちの輝く眼と、それを見守る親たちは、高度経済成長期前の日本と重なって見える。今の日本が失ってしまったものを彼らは確実に持っているのだ。（中略）

今回のツアーで感じたことは、「私たちが出来ること」を出来るだけする。そして、「魚を釣ってあげる」ことではなく「どうやったら魚を釣れるか」を伝えることが究極ではないだろうかと思う。例えば観光だ。『『ここには何も無い』があります』というのははどうだろう。帰国して冷静に思考する。

（森村和男）



①



⑥



ノートは、ミャンマーの国旗の色を採用（デザイン：鈴木孝紀建築設計事務所）



⑦



②



⑧



⑨



③



⑩



④



⑪



⑤

ミャンマー連邦共和国 Republic of the Union of Myanmar



面積：67万8500km²（日本の約1.8倍）
 人口：6242万人（2011年IMF推計値）
 首都：ネーピードー Nay Pyi Taw
 元首：テイン・セイン大統領
 民族構成：ビルマ族70%、シャン族8.5%、カレン族6.2%、ラカイン族4%、華人3.6%、モン族2%、インド人2%など
 宗教：国民の85%が仏教徒、キリスト教徒4.9%、イスラム教徒4%など
 言語：公用語はビルマ語
 通貨：ミャンマーチャット(K) 1K=約0.1円

①仏教国だけあって街の至る所で僧侶を見かける②バスは日本の中古車が多い。日本製は安全性が高く人気がある③カレン州の学校へは、途中でバスから軽トラックに乗り換える。鈴木孝紀氏（左）と弊社森村氏（右）④竹の網代壁で作られた典型的な住居⑤ヤンゴンの川の足は舟が主流⑥初日の学校で記念品のノートを手渡す協会の荻野会長⑦子供たちの笑顔がまぶしい⑧雨の多い地域のため学校は高台に建てられている⑨壁・床・天井に穴のあいた教室⑩上級生たちも全員集合。国旗色の緑のスボン、スカートが制服⑪高層オフィスからヤンゴン市街を臨む

TOPICS/INFORMATION

今月は、弊社で施工させていただいた建築家、建て主の方々の著作物、施工物件掲載誌をご紹介します。

『北山恒の建築空間 in between』

弊社で多くの施工を承っている、「architecture WORKSHOP」の北山恒先生の作品集です。2002年～2014年の活動がまとめられています。弊社施工の「OTM」、「クラールハイツ」が掲載されています。

ADP 出版
¥2700



『表参道を歩いてわかる現代建築』

米田明、押尾章治、後藤武、内野正樹の4名の建築家の方々が読み解く、表参道の現代建築集。弊社施工物件の「表参道けやきビル」「URBANPREM MINAMIAOYAMA」などが掲載されています。執筆陣によるトークセッション「表参道という場所」を読めば、建築の見方が変わります。

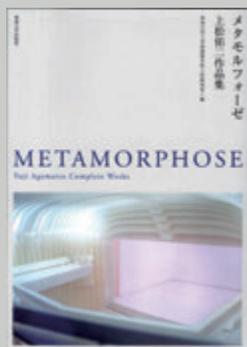
大和書房
¥2160



『メタモルフォーゼ 上松佑二作品集』

東海大学工学部建築学科の上松佑二名誉教授の作品集です。設計作品および研究室の活動を1冊にまとめ、各作品の写真はオールカラーでの掲載となっています。弊社は、神宮前のお米屋さん「小池精米店」の施工を承りました。

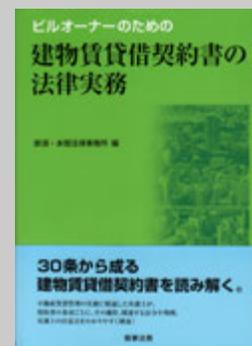
東海大学工学部建築学科上松研究室 編
東海大学出版部
¥3240



『ビルオーナーのための 建物賃貸借契約書の法律実務』

「自己責任の家」の建て主 H 様は、東証一部上場の不動産賃貸管理会社のセミナーなど不動産をテーマとした講演の実績が多い弁護士の方です。実務上の注意点がわかりやすく解説されています。

那須・本間法律事務所編
商事法務 書籍出版部
¥3800



「(仮称) シバ国立ビル 新築工事」 上棟式 8月28日



国立駅から徒歩5分、地下1階、地上3階の工場兼用事務所ビルです。11月末に竣工予定です

構造：RC造
規模：地下1階、地上3階
用途：工場・事務所
設計：木名瀬佳世建築研究室
完成予定：2014年11月

「A-FLAT 新築工事」 地鎮祭 9月13日



代々木公園商店街のお米屋さんの跡地に建つ複合ビルの工事に着手いたしました。

構造：RC造
規模：地上6階
用途：店舗・バリエスタジオ・施主住宅+賃貸住宅
設計：リオタデザイン
完成予定：2015年8月

「U邸 新築工事」 お清め 9月29日



都心の閑静な住宅地に計画された専用住宅です。周辺環境へ配慮をしながらの工事です。

構造：RC造
規模：地下1階 地上3階
用途：専用住宅
設計：LEVEL Architects
完成予定：2015年7月

「(仮称) 東大井3丁目集合住宅計画新築工事」 上棟式 9月23日



最近とみに人気のエリアに建つ集合住宅が上棟いたしました。

構造：RC造
規模：地上3階
用途：集合住宅
設計：エトルデザイン
完成予定：2014年11月

編集後記

・前月号P1の「土」文中におきまして、「アメリカ西海岸のアドビ（日干し煉瓦）のような」と記載してしまいましたが、正しくは「アメリカ西部」です。関係者の皆様にお詫びして訂正します。

(株)辰通信 Vol.175 発行日 2014年10月10日 編集人：松村典子 発行人：森村和男
東京都渋谷区渋谷3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL: http://www.esna.co.jp